

会 議 要 旨

(1/3)

会議の名称	令和元年度第1回川越市健康づくり推進協議会
開催日時	令和元年 5月28日(火) 14時15分 開会 ・ 15時35分 閉会
開催場所	川越市総合保健センター 1階地域活動室
議長氏名	会 長 廣澤 光昭
出席者氏名 (人数)	副会長 新井 正司 委 員 宮山 徳司、黒須 淳一、今井 恒晴、森山 康代、 井上 弘美、大塚 賢一、原 伸次、長峰 す美子、 米原 民子、志村 洋子、三芳 弘道、矢部 孝、江尻 旬子 (14名)
欠席者氏名 (人数)	委 員 西村 早苗、松本 勝、岩田 淳、原 知之(4名)
事務局職員氏名	健康づくり支援課 課長 嶋崎 鉄也、副課長 勝村 則子、主幹 千葉 幸子、 主幹 有馬 理恵、副主幹 長澤 朋子、主査 小高 久美子、 主査 斎藤 愛、主査 佐藤 麻記子
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 報告 (1) 川越市民の健康について アンケート調査結果報告書 4 議事 (1) 健康かわごえ推進プランの評価 (2) (仮称)健康かわごえ推進プラン(第2次) 5 その他 6 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 資料1 川越市民の健康についてアンケート調査結果報告書(冊子) ・ 資料2 健康かわごえ推進プランの評価について ・ 資料3 (仮称)健康かわごえ推進プラン(第2次)の基本的な考え方 ・ 資料4 (仮称)健康かわごえ推進プラン(第2次)現行プランに基づく策定イメージ図(案) ・ 資料5 (仮称)健康かわごえ推進プラン(第2次)策定スケジュール ・ 健康かわごえ推進プラン概要版、ライフステージ別概要版 ・ 熱中症チラシ、受動喫煙リーフレット、歯ッピーフェスティバルチラシ

議 事 の 経 過

<会議の概要>

現行の「健康川越推進プラン」の達成状況等を確認するために実施した「川越市民の健康についてアンケート調査」の結果について報告するとともに、アンケート結果等に基づく現行プランの進捗状況の評価について説明した。また、評価を踏まえた次期プランの策定方針案を提示し、意見を求めた。

<決定事項>

現行プランの評価について、委員からの意見を踏まえた上で、更なるデータ分析等を行った上で、次期計画策定につなげていく。

<発言内容等>

【川越市民の健康について アンケート調査結果報告書】

- 1日のうちでいつ歯を磨くかという設問の回答として、一番大事な「寝る前」が少ない。その辺が周知徹底されてなく、健康につながりにくいと考える。
- 仕事に関する問について、男性は60代で70%、70代でも30%が何らかの仕事をしているが、元気な高齢者が増えているのか、仕事を継続するから元気なのか、分析が必要だと考える。
また、男女とも50代以降から「生活習慣病に気を付けるようにしている」方が増えているが、健診の項目の「健診結果により指摘を受けた」方や「かかりつけ医から生活習慣病の疑いがあると指摘された」方が同じく50代以降の年代に多くなっており、健診等による指摘が大きな動機付けになっていると推測できる。今後も関係性を追いかけていただきたい。まだ、医療に頼り切る人が多い結果となっているため、更なる啓発が必要と考える。
- 医師会も健診受診率のアップに力を入れている。
- アンケート結果に90歳以上の記載がないのは何故か。
⇒表記ミスで、90歳以上の方の回答は80歳代に含まれている。

【健康かわごえ推進プランの評価】

- 健康寿命のデータについては、平均余命と健康寿命の差に注目して評価をしていて素晴らしいデータである。継続的なデータ取得が必要。
- 8020達成者の割合については、目標を大幅に達成しているが、国は50%を超えており川越は遅れている。まだまだ上を目指していかなければならない。
- がん検診については、医師会でも検討課題を見つけて受診率を上げる取組をしている。
- 地域活動栄養士PFCの会でも、野菜摂取の大切さなどをわかりやすく市民に伝えていきたい。野菜摂取量が少ない理由を突き詰めて活動につなげていきたい。
- 死因順位について、青年期と壮年期のトップが自殺になっているが、川越市としてメンタル面のフォローはどのようにしていくのか？
⇒現行プランでも「休養・こころの健康」の取組を進めているほか、昨年度には保健予防課で自殺対策計画を策定しており、次期プランでは関連計画として位置づけて取り組んでいきたい。

議 事 の 経 過

- 医師会としては、自殺対策検討会を開いたり、産業医会ではストレスチェックを行うなどの取組をしており、今後も続けていく必要がある事業であると考えている。
- 死因順位について、青年期や壮年期については、高齢世代と比較して死亡者数自体が少ないため、相対的に割合が高くなったと考えられる。データを比較しやすくするため、死亡率での表も作ってほしい。

【その他】

- 県では虫歯の放置数と保護者の子どもに対する関心の関係の分析を試みており、川越市でも同様の取組をしてはどうか。
⇒子ども・子育て支援事業計画に入る可能性もあるため、調整して検討したい。
- 統計データでは、1月・8月・9月の親戚が集まる月は、子どもの自殺が少なくなっている。親族などからの言葉かけにより子どもはホッと気を抜けるため、積極的に親戚の集まりに連れ出すよう話をしているところである。